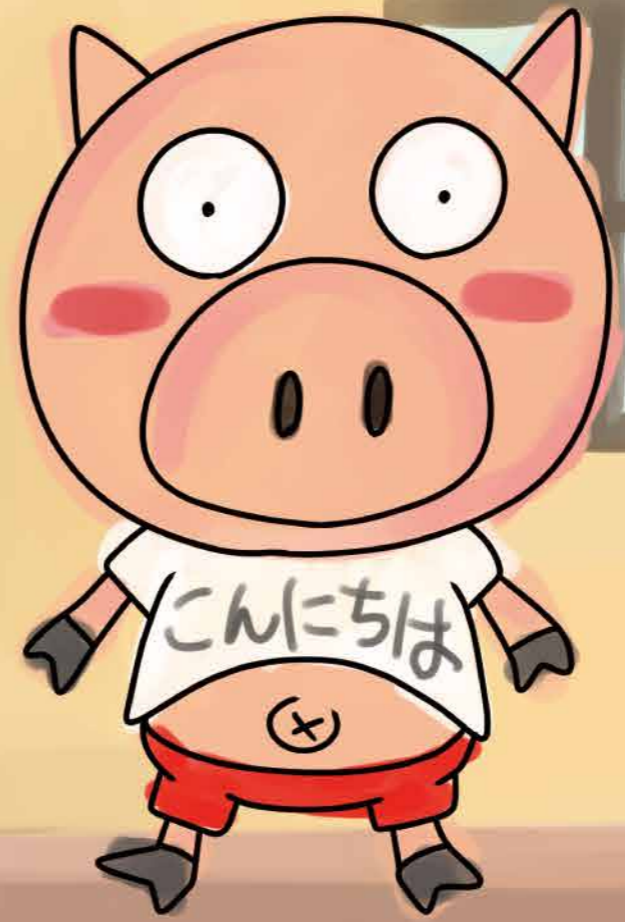


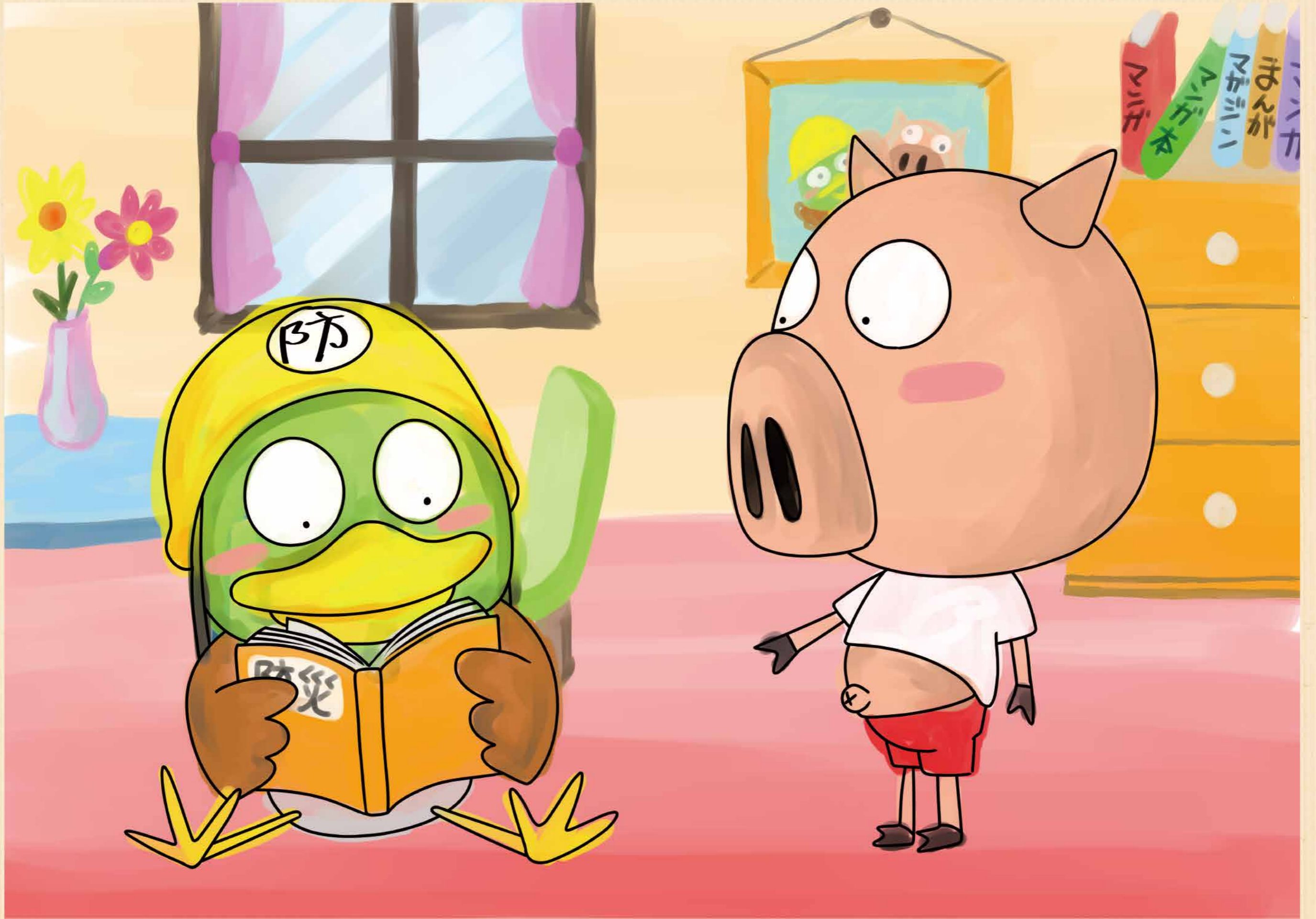
おきる
カモ

と
だるま
がた

カモちゃん
おはよう



だるま
がた







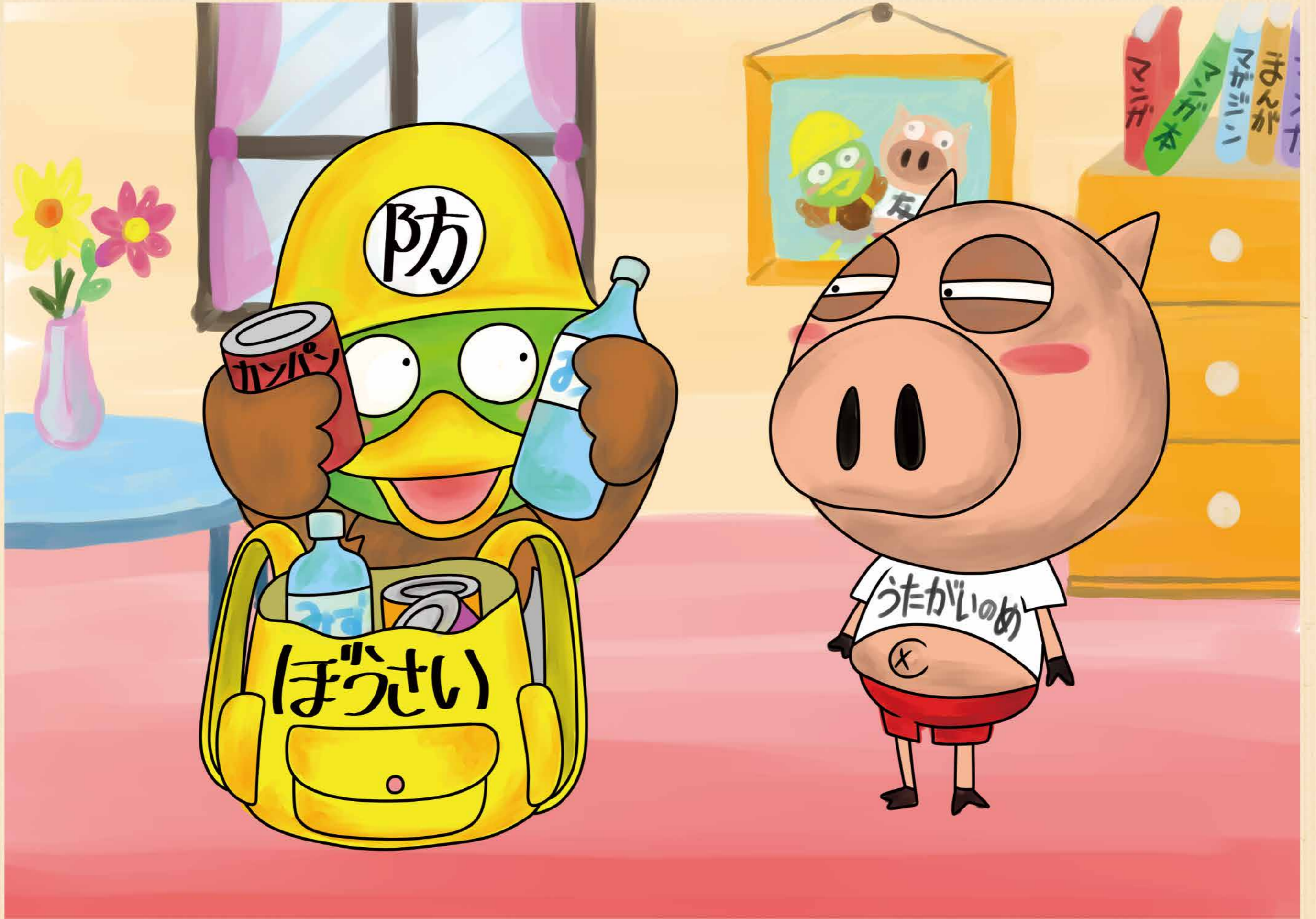
防

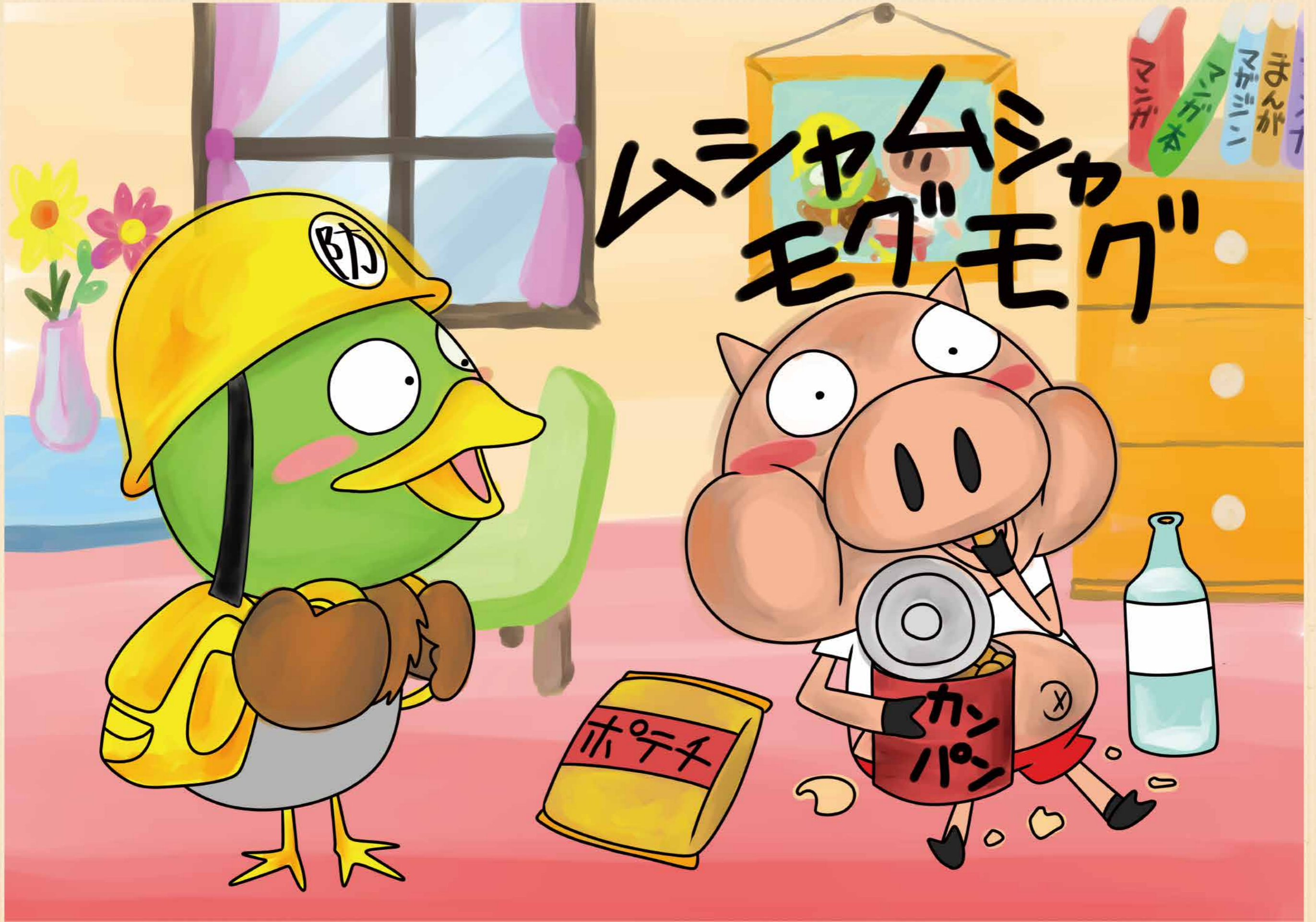
おかたづけの
ハコ

ホジホジ

まが
まが
まが
まが







ムニャムニャ
モグモグ

BT

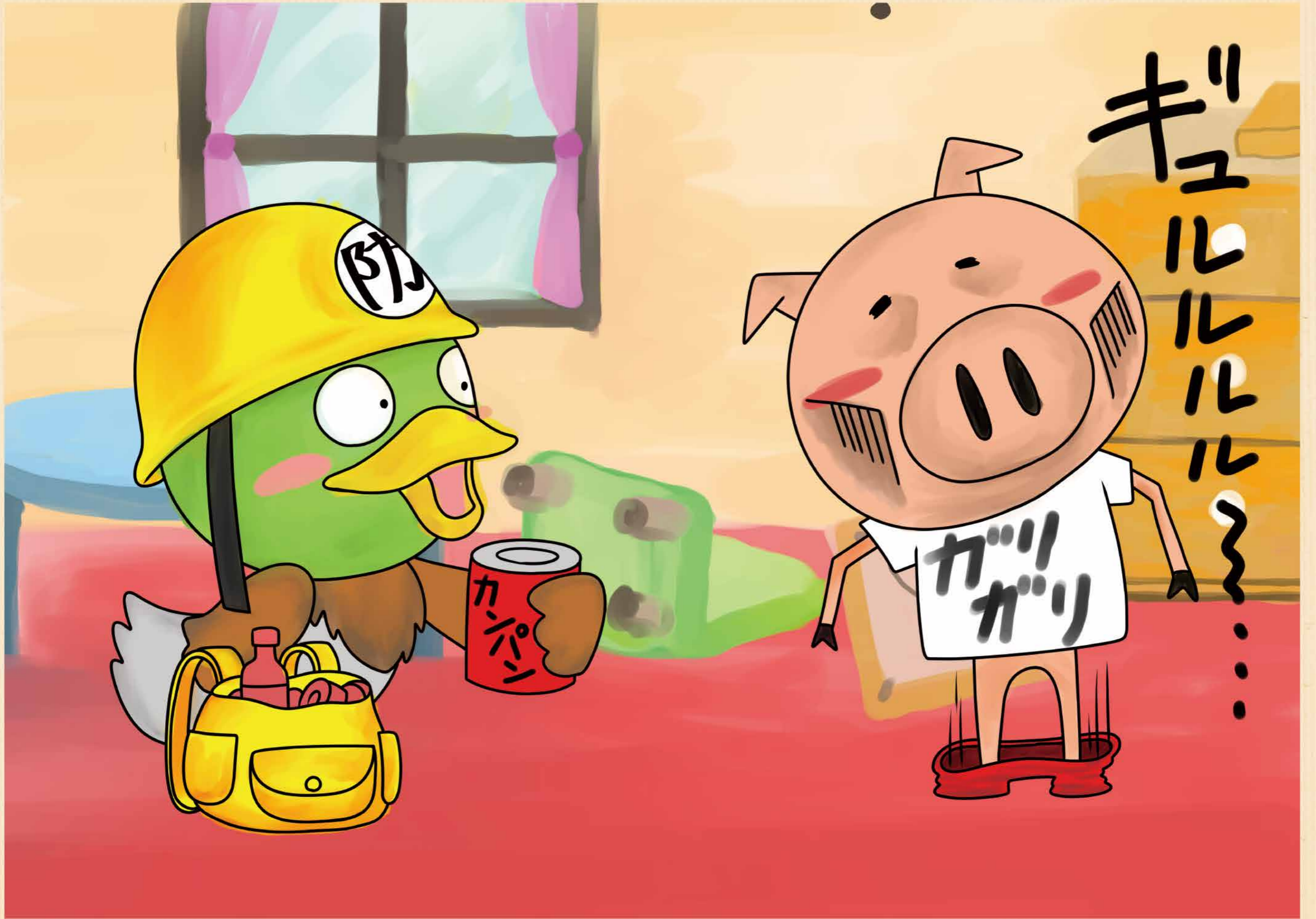
赤子

カンパン

ミルク
バナナ
チョコレート
お菓子















①

『おきるカモとだいじょうぶ』

あるところ、「もしかしたら何かおきるカモ?」

が口癖のおきるカモと

「何もおきなうだうじゅいブー、うだうじゅいブー」

が口癖のだいじょうぶが仲良へ暮らして来ました。



②

ある日の事、おきるカモが本を読んでいると、

だいじょうぶタが話しかけてきました。

「ねーねーおきるカモくん、いったい何をしてるんだブー？」

「これかいつ？これは地震や火事が起ったときいっ、

どつすればいいかを勉強しているんだー！」

とおきるカモは答えました。



③

「地震や火事っ！だいじょうブー、だいじょうブー。
 そんな事起きるわけがないじゃないか！
 やっぱり読むならマンガが一番だブー。」
 と言っただいじょうブタはマンガを読み始めました。
 「ちぎちぎ、ちぎちぎ、ちぎちぎ、ちぎちぎ」
 もしかしたら何かおきるかもよ！
 だいじょうブタは聞く耳を持ちません。

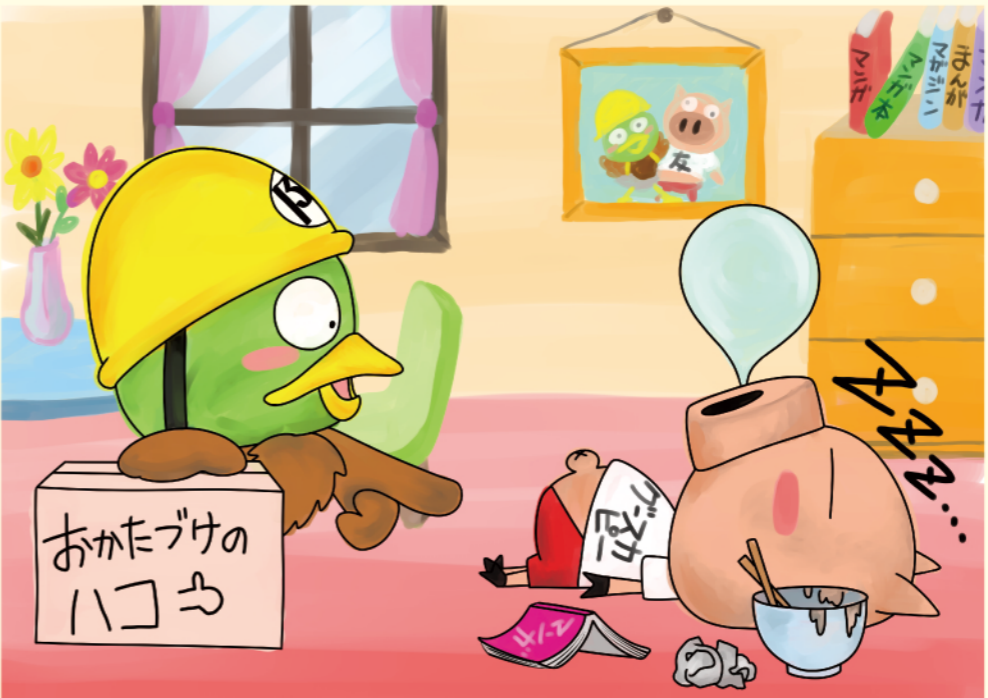


④

ある日の事、おきるカモが部屋のお片づけをしてるよ、
だいじょうぶタが話しかけてきました。

「ねーねーおきるカモくん、いったい何をしてるんだブー？」
「これかいつ？これは地震や火事が起ったときい、」

何がどこに置いてあるかわかるよう、
お部屋を整理整頓しているんだ。」
とおきるカモは答えました。



⑤

「地震や火事？だいじょうブー、だいじょうブー。

そんな事起きるわけがないじゃないか！

やっぱり散らかってる部屋が一番落ち着くだブー。」

と言っただいじょうブタは居眠りを始めました。

「ごらごら、ごらごらごらごらごらごらごらと、

もしかしたら何かおきるかもよ」

だいじょうブタは聞く耳を持ちません。



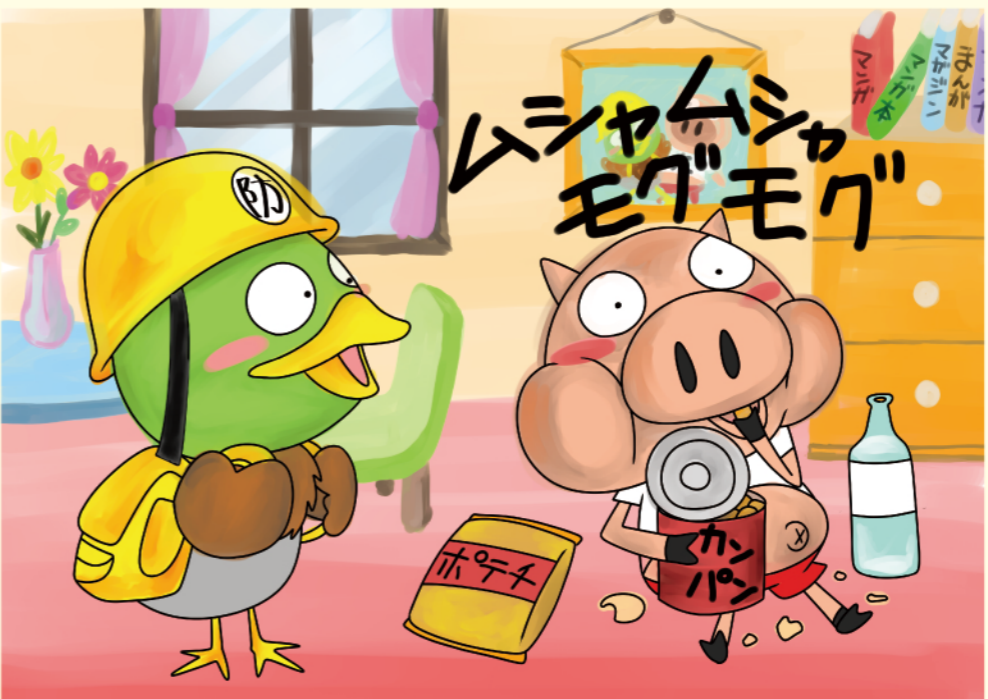
⑥

ある日の事、おきるカモがリュックをいじってると、
だいじょうぶタが話しかけてきました。

「ねーねーおきるカモくん、いったい何をしてるんだブー？」

「これかいつ？これは地震や火事が起ったときいっ、」

すぐ持ち出せる荷物や食べ物を用意してるんだ。」
とおきるカモは答えました。



⑦

「地震や火事？だいじょうブー、だいじょうブー。」

そんな事起きるわけがないじゃないか！

ちっぱり食べ物はずぐ食べるのが一番だブー。」

と云ってだいじょうブタはパンやお菓子を

ムシャムシャと食べ始めました。

「ちっぱり、だいじょうブタと、

もしかしたら何かおきるかもよ」

ちっぱり、だいじょうブタは聞く耳を持ちません。



⑧

その日の夜「ゴゴゴゴ」という音とともにグングンと部屋が揺れ始めました。大きな大きな地震です。おきるカモは勉強した通り、頭を守りながら机の下に隠れました。ビックリしただいじょうぶタは、慌てて何も手につきません。「ロシン」「いつてだブーー!」だいじょうぶタの頭に、上から落ちてきたマンガの本がぶつかりました。おきるカモは言いました「だいじょうぶタへん、早く頭を守って机の下に隠れるんだ!」



⑨

しばらくすると地震はおさまりました。しかし、

停電で部屋の中は真っ暗。おきるカモは整理整頓
していたので、すぐにライトを見つけ出しました。

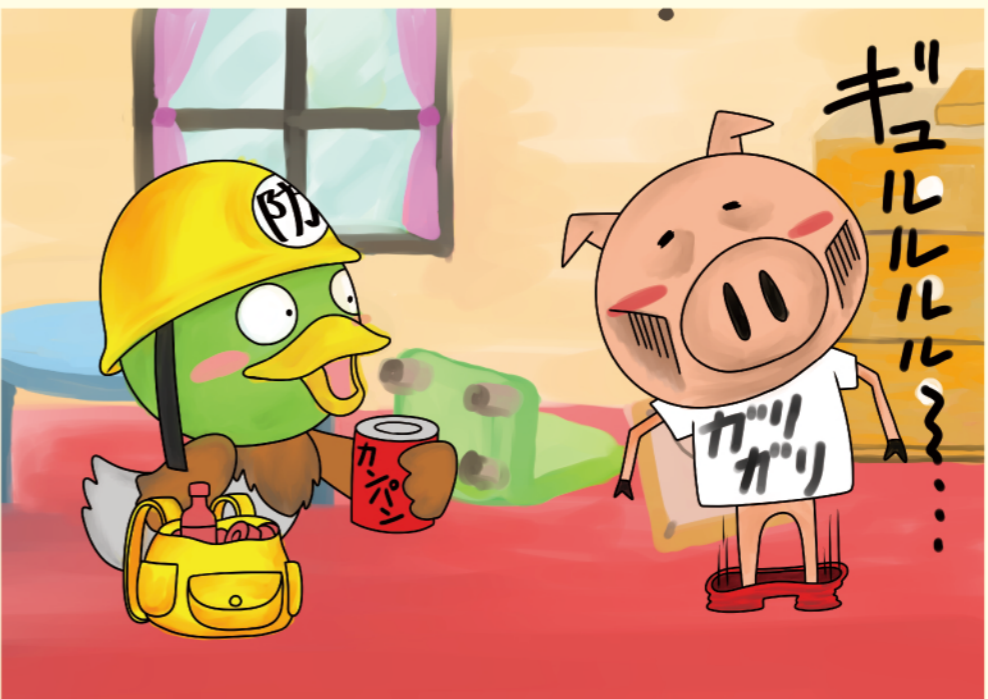
しかし、だいたいじょうぶタは、真っ暗で回りが見えません。

「ガッン」「うててだブー！」

だいたいじょうぶタはタンスの角に足の小指をぶつけました。

おきるカモは言いました

「だいたいじょうぶタへん、と、と、ライトで照らしてあげなから、
心配しないで」



10

しばらくすると停電はおさまりました。

しかし、時間もたったのでおなかがすいてきます。

おきるカモはリュックの中から乾パンを取り出し、
食べ始めました。

しかし、だいじょうぶなは、

食べ物をとっておかなかったので、何もありません。

「キョネネネネ〜」「おなかがすいたゾー」

だいじょうぶなははお腹がすきすぎた、

目が回ってきました。

おきるカモは言いました

「だいじょうぶなくん、乾パンを分けてあげるから、
いっしょにおくら」



11

だいじょうぶタはおきるカモの優しさと、

地震の怖さをでフンフン泣きました。

「えーんえん、ぜんぜんだいじょうぶじゃなごブー、

ぜんぜんだいじょうぶじゃなごブー」

おきるカモはだいじょうぶタを優しく

撫でてあげました。



12

するよ」からともなく声が聞こえてきました。

「みんなーケガはないかー?」

そっ、ボウサイザーが助けに来てくれたのです。

「おきるカモくんもだいじょうぶタくんも無事でよかった。」

おきるカモは言いました「もしかしたら何かおきるカモ?」

と準備をしていたから助かったよ」

ボウサイザーは「うん、えらいぞおきるカモくん。

ほかにも水や熱に強いポリ袋なんかも用意しておくと役に立っぞ」

と言いながら、おきるカモとだいじょうぶタの頭をなで、

すっぴんスプードで去っていきましたー!



13

泣き止んだ、だいじょぶブタは言いました。

「おきるカモくん、いろいろ助けくれてありがとう。」

「これからは本当にだいじょぶブーって言えるよ。」

「ちゃんと準備しておくよ。」

「そっだね、一緒に準備しておいて。」

とおきるカモはいいました。

こうして二人は今まで以上に仲良くなったのでした。